

アフリカ美術の人類学

ナイジェリアで生きるアーティストとアートのありかた

緒方しらべ 著

432 ページ

ナイジェリア南西部、ヨルバ神話の舞台となる古都イレ・イフェで、たくさんのアーティストがアートなるものを制作して暮らしている。美術館や博物館、書籍や論文で取りあげられることはほとんどない。経済的に成功している者も、していない者もいる。それでも彼らは「アーティスト」と称している。イレ・イフェにおいてアーティストであるとはどういうことなのか。彼らの活動や生活は、地域とどう結びついているのか――。

ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS)、国立民族学博物館出身の若手研究者が 10 年にわたるフィールドワークを集成。

「こういうものがアートだとか、ああいう作品が良いという私の価値判断は、イレ・イフェの現実の中で揺らいでいく。」(本文 8 頁)

「これから本書で見ていくアフリカ美術は、美術館や博物館で取り上げられない作品がほとんどである。アーティストの多くはアフリカ美術に関する書籍や論文にも登場しない。これはアートとは言えないだろうと思ってしまう作品もあるかもしれない。しかし本書のねらいは、アフリカの一都市でアートなるものを制作し、それを販売して生活するアーティストと呼ばれる人びとの営みに焦点をあてることである。」(本文 9-10 頁)



本体 7000 円 + 税 清水弘文堂書房

ISBN978-4-87950-627-6 C3039

2017 年 2 月発行



貴店 (帖合) 印

ご担当

7000

ISBN978-4-87950-627-6 C3039 ¥7000E

注文数

書名

アフリカ美術の人類学
ナイジェリアで生きるアーティストとアートのありかた

発行所

清水弘文堂書房

著者

緒方しらべ

定価：本体 7000 円 + 税